

今、なぜ観光・飲食を経済活性化の主力にしたいのかといえば、飲食 GDP80 兆円、観光 GDP は 40 兆円、全 GDP の 40%以上を占めております。

世界第 2 位経済大国でありながら日本の中小企業が不況から抜け出せない理由は GDP の 60%を占める内需が全く振るわないからであります。

内需のウエイトは家庭では衣料と電器製品、そして「観光と飲食」があり、観光と飲食を合わせて私の推測ですが 120 兆円位あると思われます。

この内需をどう活用するかが今経済活性化のために問われる課題であります。

都会人の求めるものは、都会の喧騒から離れ、大自然、歴史があり保全された景観、自然の中で育った山野草、果物、近海の鮮魚、地魚、そして人情、風物詩であります。

こうしたニーズに対応できる資源が千葉県にはたくさんあります。

しかし、経済活動から見た千葉の県民性の欠点は、昔から海・山の大自然に恵まれ、他に依存する必要のない郷土であったが故に、外から移動・移入してくる人達を受け入れず、むしろ拒む習性があります。

結果として昔からの顧客にはきわめて愛想のよい笑顔を見せる反面、よそ者には全く無愛想な表情をみせることがあるようです。

観光を地域開発の中心に据えようとするならば、外に開かれたおもてなしの心が必要です。

また、時代のニーズは開発から環境保全へと変わりました。

大自然の保全の一つに「水」があります。

千葉県は水が豊富にあるように思われますが、実は高い山や奥深い山が少ない為に意外と水は少なく、利根川からはるばる房州まで引いています。

心配されるのはその水源のそばに産廃場や処理場施設が目立ち始めていることです。

食に一番大切な『水』。その安全性を確保していくことが今求められています。

幸い、君津市には小櫃地区や上総地区にこんこんと湧き出る井戸が多くあります。こうした「美味しい水」をうまく活用した飲食業が展開できたらと思っています。